

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500245		
法人名	医療法人社団 きのこ会		
事業所名	笠岡市炉端の家		
所在地	岡山県笠岡市吉浜1399		
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

炉端の家は、介護保険改正により、身体拘束廃止に向けての取り組みや、新たな加算(リハビリ、歯科、栄養)にも取り組んでいる。引き続き運営推進会議の開催、近隣住民や中学校と交流する機会も多く、自然な形で地域との触れ合いができています。昨年は、西日本豪雨で、金浦地区も水害の被害を受けた。ホームは高台にあるので被害はなかったが、道路が冠水し孤立した。運営推進会議を通じて、地域住民、笠岡市職員と災害について話し合いをした。ホームの災害対策では、食料や水の確保、災害時の対応などについて取り組みをすすめている。以前より地域交流を深めていく中で、何か地域貢献ができないだろうか?と思い、近隣地域住民を対象に笠岡市と連携して地域講演会が開催できた。また、ホーム内では職員の研修に力を入れている。実践者研修、リーダー研修、法人内のグループホーム内の勉強会、母体の病院の勉強会へ参加し、働きながら学ぶことで職員教育にも力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500245-00&PrefCd=33&VersionCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成31年2月27日		

開設20年以上となりその間には改修もしたが、ほのほのとした懐かしさも感じられる建物と、リビングの和気藹々の雰囲気は私の心を引き付けた。窓から見える坪庭には、春を感じる色とりどりの花が眺められ、Aさんが花の名前を教えてください。「この世に生まれたら勉強が一番。私も教わることが多い。何でもいい方がいい方に解釈せんと」と言いながら、ホールに居る人達のことを教えてください。見学や研修に訪問を受けることが多いからか、お客への接待や説明がとて上手で職員の方々も笑顔で見守っている。昼食準備には、利用者も3名参加。自室で休んでいた人が、水をもらいに台所に来ると「私は捨てられてもいい人間。ぐうたらしてごめん。迷惑かけるね」と呟くと、「ええが、ええが」と声を掛け合う姿に、この家が一つの家族になっている事が分かる。これも職員の方々の、対応の素晴しさからくるのだと感じる。昨年の豪雨で施設が孤立した。管理者一人で対応したことも大変であったと思うが「利用者にも手伝って貰いながら・・・」という言葉に人と人との関係性や日頃の心の繋がりを思いやることが出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が楽しく心地よく過ごせる生活の場となるように」という理念をもとに、色々な行事や日々の活動につなげていけるように取り組んでいる。いつでも見られるように玄関に理念を書いたものを置いている。	利用者の重度化により「楽しく心地良く」は厳しい状況の時もあったが、このところ理念を実践できる日々となっている。食事の後は、時間が空くのでその時にスタッフのコミュニケーションやカンファレンスなどをしながら、職員間で理念の共有もやっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も引き続き、近くの中学校吹奏楽部の演奏会、地域の文化祭鑑賞と作品出展、秋祭りの子供みこしの訪問、ボランティアの受け入れ、公民館の体操へ参加し、地域住民となじみの関係を深めている。	近くのお店へ、利用者と一緒に買い物に行くので、地域の人も覚えてくれている。地域の行事の参加以外でも、道路の草取りや中学生の職場体験や大学生の実習の受け入れ等も行っている。法人内の他のホームより民家等が近いので地域との付き合いは多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方、笠岡市の協力により、念願であった近隣住民を対象とした地域講演会を開催できた。笠岡市長寿支援課と地域包括ケア推進室の方に講師をお願いし、介護保険や健康作りについて学んだ。他のきのこグループホームへも参加の呼びかけをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム近くの中学校や地域住民、民生委員、笠岡市職員へ参加を呼びかけ、実践報告、課題について意見交換をし、出た意見を参考にホームのサービスにつなげている。また、地域講演会の開催に協力していただいた。	運営推進会議には、毎回行政の参加と地域住民の参加も多い。利用者のBさんが参加して「いろんな所に連れて行ってもらうし、元気ですよ」等の発言をした記録もありとても頼もしい。今年は地域住民に向けて地域講演会を行政と企画・開催をし好評だったと聞いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域交流会には、毎回参加がある。困ったことがあれば、市の担当者と相談するようになっている。介護保険についても、市と連絡を取り合い協力関係はできている。庭の大きな木を切ったり、垣根の植樹など環境整備もできた。	このホームの歴史として、笠岡市との関係は開設以来よく連携を取り合っており、施設全般その他についても、その都度相談に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が安全に安心して生活ができるように見守りや環境面の整備、玄関にセンサーを設置している。日頃から、身体拘束の指針をもとに職員間で話をしたり、研修会へ参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体でも研修を実施し、全職員にも身体拘束の指針を配布している。日頃のスタッフミーティングの中でも職員の言葉や態度の中で、利用者の行動制限をしていないか等話合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修に参加したり、入居者に虐待が疑われるような行為がないか、職員間で話をして虐待防止に取り組んでいる。入居者の対応が難しい場合は、その都度話し合いをし職員が抱え込まないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修で学んだことを、他のスタッフへ伝達した。権利擁護の活用は今のところない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約前に、家族から話を聞いている。契約時にも、管理者が家族へ、ゆっくりと時間をかけて説明し、話を聞いている。契約時、それ以外でも管理者が説明を行い、納得して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は春秋の家族会で懇談会を行い、家族同士の意見交換の場を作っている。日頃、困っていることを懇談会の議題にあげる事もある。利用者にも感想を聞いている。それらをホームの運営に反映させている。地域交流会に利用者も参加している。	家族会は1年に2回実施している。家族の参加も毎回、10～13名程の参加がある。秋の家族会では、来年度に向けてのことも話合われている。又この時には、利用者からも意見や感想を聞いている。	運営推進会議や隣の研修センター、この地域等で利用者が発言するチャンスがあることはとても良いことなので、今後もこのような場面を多くして欲しいと願っている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はいつでも相談ののって下さる。管理者は、日頃から職員の相談、意見にいつでもものようにしている。時間がある時を利用して意見交換をしている。困ったことや大きな事故が心配される時は、緊急ミーティングをし職員の意見をきいてサービスにつなげている。	職員間でのコミュニケーションは良く取れている。日頃から、管理者が個人的にも相談に乗っている。場合によっては、事務長・事務次長なども対応している。以前から誰にでもなんでも、声を掛けてくれる院長先生の存在は大きい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体の病院が離れているため、必要があれば、電話連絡したり、エスポアール病院へ出向き相談している。毎月の往診時に院長に相談することもあり安心して仕事に取り組めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の病院での院内研修や認知症疾患センターや笠岡市の研修会に参加した。きのこグループホームの研修会へも参加している。他の職員へ伝達もしている。実践研修やリーダー研修へも参加しケアの向上につながった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、きのこグループホームの管理者交流会へ参加したり、必要時にはいつでも連携をとっている。内容を職員へ伝え、サービスの向上に役立っている。職員は、きのこグループホームの勉強会へも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人に管理者、ケアマネが会いに行き、生活の様子を確認したり、話を聞くようにしている。少しでも顔馴染みとなれるように気を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族に来て頂き、家族の思いや入居後の生活について話を聞くようにしている。可能であれば、本人と一緒にホームへ来て頂き、見学や話を聞くことで安心できるように関わっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に管理者とケアマネは、本人や家族と会ったり連絡を取り、必要な支援を見極めるようにしている。ケアマネを中心にケアプランを作成し、入居日からケアプランをもとにサービスが開始できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢ではあるが元気な方々が多く、自分でできる事はどんどんして頂いている。コミュニケーションをしっかりと、楽しく、心地よく生活が出来るように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年は台風で夏祭りを中止した。春秋の家族会で懇談会を行い、利用者のこと、家族の思い、ホームの運営で困っていることなどを話し合い意見を聞くことが出来ている。家族の面会には、日頃の様子を伝えたり、家族が職員へなんでも相談しやすい関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や、公民館体操、地区の行事へ参加することで、利用者が馴染みの方と過ごす機会がある。職員と墓参りへ出かける人や家族と外出や外食、定期受診や自宅へ帰る人もいる。	近くのお店に買い物に行ったり「外に出かけたい」との声があると随時対応をしている。地元の行事に参加しても、地域の皆さんが声を掛けてくれる。認知症を通しての「〇〇さん」ではなく、個人として付き合ってくれている状況が見れて嬉しいと聞いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で食事をしたり、くつろぐことが出来るので、利用者同士が声をかけあい、交流できている。利用者同士が助け合う場面もあるが、時に口論やトラブルになる時もあるので、職員は見守りながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、病院へ入院し亡くなられた方のご家族と電話でのやりとりやホームへの訪問があった。今年度は入居者入れかわりは無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が発する言葉や思い大切にし、職員間で共有し、願いや思いが実現できるように関わっている。いつでも参考に出る様に記録に残すようにしている。	自分の意見を言う事が出来、思いを直接言ってもらえる人が多い。今回は利用者の声で「牡蠣を取りに行きたい」とのことから、牡蠣を取りに行った。又何でも言いあえる関係も大切にしている。職員と利用者だけでなく、利用者同士でも会話が多いのでより其々の思いを多く知ることが出来る。	介護記録を見ると、物語が目につかぶように書かれており、素晴らしいと感じた。利用者本人の想いが理解できるようだ。このような記録が次のステップに繋がる事を期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞いたり、ホームの行事や面会を通じて、生活歴を把握するようにしている。以前から入居している方でも、色々な情報が把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録を残し、変化があれば職員間で意見交換をしている。情報の共有を行い、一人一人にあわせた対応が出来るように取り組んでいる。毎月、日常記録の簡単なまとめを担当者が行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが事前に本人、家族の意向を確認し、それをもとにカンファレンスをしケアプランを作成している。ケアマネが中心となり、職員との意見交換、伝達を行っている。カンファレンス前には職員全員の意見を出すようメモをし、どの職員も意見が言えるように取り組んでいる。	ケアマネを中心に、入念なカンファレンスを経てケアプランを作成している。又一部の本人も、カンファレンスに参加し、自分の思いを話し新しい発見があることもある。又、日常の会話の中でも思いがけない言葉があると、即拾い話し合いプランにも反映させる事もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録へは本人が言った言葉を書くようにしている。入居者の方の変化や大事な伝達事項、うまくいったケア方法、職員が感じたこと等を記載し後から見てすぐわかるようにしている。そのため職員間の情報共有がしやすい。また、記録からケアのヒントになる事も多い。ケアプランへも反映できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化があった時や変化が予測されるときには職員間で話し合い、その状況に対応できるようにしている。また、ホーム内で解決できないことは、家族に相談し協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流会、公民館便りや笠岡市からのお知らせを通じて、地域の行事への参加やボランティアの受け入れをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、母体のきのこエスポール病院の院長の往診がある。協力病院へは、職員が付き添いを行う。他の病院への(内科、眼科)定期受診は家族が付添いをして下さる。	「認知症の人の入院は難しい」と陰では噂される現状が、チラホラ聞こえてくる中で、利用者の皆さんは、院長先生が大好き。気さくに話しかけて下さるので「先生の顔を見ただけで元気になる」と聞いた。母体の病院との連携が確実なので、利用者も職員も安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か困ったことがあれば、協力病院の外来看護師がいる時間帯には、連絡を取り、状況報告、相談をしている。毎月の往診時にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、職員が同行し状況を伝え、転院書を作成し、治療がスムーズに開始できるように対応している。管理者が中心となり、家族の協力を得ながら、面会を通じて情報交換や病院関係者との関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の身体状態を見ながら、管理者が家族と今後のことについて、相談するようにしている。状況により、主治医に相談を行い、ホームとして、その方の今後の方針を決めるようにしている。管理者は、職員へも家族、主治医とのやりとりを伝達し、チームとしての方針を決めるようにしている。	現状としては、対象者はいない。今後重度化していくと、その都度相談し、関係機関と連携して対応していく予定ではある。本人・家族の希望が強い場合は、主治医ともよく相談して、受け入れるつもりである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員、利用者、関係各所の連絡先、緊急時の対応についてのマニュアルを一つのファイルにまとめている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	7月の西日本豪雨で近隣が水の被害をうけ、道路は冠水しホームは孤立した。災害時の対応について何度も職員間で話をした。現在、3日分の食料と水を備蓄している。運営推進会議でも、災害の話題をとりあげ地域との連携、災害時の地域の状況等について意見交換をした。	昨年の西日本豪雨の時は、一時的な停電はあったが、水道は止まらず良かった。食料も備蓄があったので対応できたが、一番困ったのは、職員が来れなかった事という話を聞いた。周りの道路が冠水すると孤立してしまうという状況が今後も起こり得ると思われるので、市町村や法人レベルでの対策が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報を共有し、引き続き、利用者の思いを大切にし、利用者一人一人に合わせて関わるようにしている。	利用者は、自分の思いをそれぞれの言葉や表現方法で伝えている状況がとても良い。但し、思ったことを遠慮なく口に出せる雰囲気の中でも、職員は一人ひとりのプライバシーを尊重した姿勢がよく分かる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の関わりの中から、本人の意思や希望を聞いたり、くみ取るようにしている。本人の言葉を記録に残し、職員間で共有することで、思いを実現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで比較的自由に過ごしていただいている。入居者が嫌がることが減らせるようなケア方法を探し、穏やかに過ごしていただけるよう日々努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問カットを利用。馴染みのある美容師さんにカットしてもらっている。1名の方は本人の希望により毛染めをしている。1名は、娘さんに定期的にかットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日や季節の行事には、日常の会話で利用者の希望を取り入れている。利用者と一緒に、買い物、食事作り、食事、片づけをしている。出来る事を探して、入居者の力を引き出すように関わっている。『おいしい』を大切にし食事を楽しんでもらえる工夫をしている。	食事作りは、担当職員1名と利用者と一緒にしている。できる人が多いので仕事の取り合いになってしまうこともある。食事の好みや量もその人に合わせて対応している。材料を洗う切替・盛付けやお茶の用意から食後は食器洗い・後片付け等、職員の見守りの元行っている。食事の時も、楽しく会話は絶えない。	食事作りは、今の「炉端の家」では実に楽しい。それぞれに役割があり“大働き”だ。この風景こそ本来のグループホームの姿と思う。一日でも長く、この状態が続くことを願っています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養スクリーニング加算で半年ごとに栄養状態の確認をしている。一人一人の状態に合わせた食事形態、水分摂取の方法、食事、水分量を検討、実施し、食事、水分量の把握をしている。必要に応じてOS-1で水分補給をこまめにして便秘の解消や脱水に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、訪問歯科を利用し口腔ケアの指導や相談を受けている。モーニングケアやナイトケア時、口腔ケアを行っている。口腔ケアを嫌がり毎回できない人もいる。できる時にしてもらっている。以前より口腔ケアに対する意識が職員にも高まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、布パンツ4名、紙パンツ4名。紙オシメ1名（お尻にかき傷ができ処置をするため）。Pを併用している人もいる。日頃の観察で、紙パンツ→布パンツで対応している方もいる。放尿、放便で困った場合は見守り、声かけ、トイレ誘導を行い現在は回数が減っている。一人一人に合わせた排泄方法を検討し取り組んでいる。	尿意があると思われる人は、現在6名くらいで自分でトイレに行っている。紙パンツを使用しても、破る人は布パンツで対応している。パットを何枚も重ねて使用したり、汚れた物をしまっている人もいるが、「それもよし」とみなして記録に残している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の身体状態に合わせて、水分補給や排便を促す食べ物を取り入れている。記録に残し、下剤の服用、量や服用時間の調整をしている。便秘が強い方には、往診時、主治医に相談したり、随時外来の看護師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の拒否や興奮される方もいるが、怪我のないようタイミングをみて入ったり、職員間で協力し、できるだけスムーズに入浴が出来るように対応している。以前より入浴が出来るようになった人が3人いる。希望により毎日入浴する方が1名いる。	入浴では、声掛けのタイミングや、その人と気の合うスタッフがお相手する等、試行錯誤しながら対応している。お風呂嫌いで、浴室まで来れない人もいるが、無理強いせず機嫌よく入浴してもらえよう根気強く付き合っている。最近は、入浴を気持ちよく楽しんでくれる人が少しずつ増えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活状況を把握し、夜間入眠出来るように生活リズムを整えるように関わっている。夜間影響がない程度に、様子をみながら、自室での休息も取り入れている。睡眠リズムを整えたり、スムーズに入眠できるように眠剤を服用している方が4名いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤関係は、日常記録のファイルにはさんで、いつでも確認できるようにしている。毎月ファーマシーセと薬局の訪問により、薬に関するアドバイスが受けれている。薬剤管理指導報告書も参考にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の業務方法を検討し、日常生活の中で、利用者が出来る事は自分で頂き役割が持てるよう働きかけている。年間行事の時や日々の暮らしの中に、入居者が楽しめることを取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出がなかなかできない方もいる。外出したい方には、買い物やドライブへかけている。本人の希望があれば、家族の理解、協力をえながら外出している。	昨夏はとにかく暑かったため外に出られずにいた。今は寒いし出たくない人もいるが、これから気候が良くなれば出掛けようと思っている。近所にあるコンビニは皆さん好きで、買い物へ一緒によく出掛けている。毎日「どっか行こうや」と言われるOさんには、その都度散歩など対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により、金銭は職員が管理をしている。買い物の時、本人の希望があれば品物を購入することも可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話がある場合は、本人に代わって話をしてもらっている。携帯電話を持っている方が1名いるが、トラブルに巻き込まれないよう注意し、家族と相談しながら支援している。その方は、家族とよく電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節、イベントを感じてもらえるように利用者と協力してインテリアし、利用者にも張り合いがもてるように、また、心地よい環境作りを心がけている。照明にも気をつけ落ち着いた環境に配慮している。	広い窓に、テーブルに居てもキッチンの様子がよく見えるオープンキッチンでとても居心地が良い雰囲気。会話を楽しんでいる人やレゴブロックをしている人とそれぞれだが、ゆったりとしている。坪庭に咲いている色とりどりのお花も優しい気持ちにしてくれた。花談義にワイワイと花が咲いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分が決めた席へ座る方もいる。利用者がお互いに協力できる席にしているところもある。食事以外は、居間で自分の好きなところへ座って過ごすことができる。介助が必要な方には、安定した姿勢や安全面に注意し、みんなの中で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に、本人の馴染みの物を置いてもらうように家族にお願いしている。家族からの年賀状や家族との写真を飾ったり、自分で作った作品を飾ったり、それぞれの方に合わせた空間になるよう工夫している。月日を重ねますますその人らしい素敵な部屋になっている。居室の掃除も入居者と一緒をしている。	その人らしい居心地の良い環境にしている。その人の歴史や、家族との関係や思いが良く分かる。飾っていた以前の写真が色あせると、又新しく焼き直し引き伸ばして壁に飾る等離れていても、家族の愛情や職員の色々な配慮や工夫、思いやりがいっぱい感じられる居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、身体状態、認知症状にあわせて、安全に過ごせるようベットの配置を工夫し環境整備をしている。ホーム内には、3カ所扉に鈴をつけているが、利用者が自由に安全に動けるようにし、また生活に支障がない音にしている。		